アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム作成にあたって

育みたい資質・能力につなぐ

幼児期

学びの芽生え

「就学前までに身につけたい力」を明確にすることで、就学前教育と小学校教育が共通の認識をもち、幼児期の力を小学校へ確実につなげる

・小学校教育のカリキュラムを先取りするものではない
・将来の学びにつながる体験を幼児期にふさわしい形で実現させていく

カリキュラムの内容

・子どもの実態や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに接続期につけたい力を明確にする
・その力を育むための具体的な活動内容を幼小一緒に話し合い設定する

作成のポイント

・一日の時間の工夫
・協同的な遊びや体験の充実
・様々な人との関わりを楽しめる活動の工夫
・学びの芽を大切にした活動の充実
・就学に期待をもつ活動の工夫
・家庭と小学校との連携

アプローチカリキュラム

接続期

子どもの実態や課題

長期的な見通しをもった子どもの育ち

互いの教育の方法や指導の方法

子どもの姿と教育の在り方を共有

保・幼・小・自治体が協働で策定

持続可能な体制の構築

幼児期の経験を生かす

スタートカリキュラム

児童期

自覚的な学び

安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整えよう

・児童の実態を踏まえる
・人間関係が豊かに広がる
・学習のきっかけが生まれる

一人一人の児童の成長の姿からデザインしよう

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や幼児の発達を理解し、カリキュラムをデザインする

安心　成長　自立

生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図ろう

・自分との関わりを通して総合的に学ぶこの時期の発達の特性を踏まえる
・児童の意識の流れに配慮したつながりのある学習活動を進める

児童の発達の特性を踏まえて、時間割や学習活動を工夫しよう

・短い時間を活用した時間割の構成や具体的な活動を伴う学習活動の位置付けを工夫する